

## 植生タイプ別再生ポテンシャル調査

### I. 第1回検討会時の森林再生の考え方

表1 検討項目と再生ポテンシャル評価(予測)

植生タイプ	I ミヤコザサ	II トウヒ ミヤコザサ	III トウヒ コケ疎	IV トウヒ コケ密	V ブナ ミヤコザサ	VIA ブナ スズタケ密	VIB ブナ スズタケ疎
①鹿による剥皮	有	有	有	有	有	有	有
②母樹	無	有	有	有	有	有	有
③後継樹	無	無	無	無	無	無	無
④種子供給	無	有	有	有	有	有	有
⑤実生	無	無	無	有	無	無	無
⑥定着可能な倒木・根株	無	無	無	有	—	—	—
⑦埋土種子	?	?	?	?	?	?	?
⑧菌根菌	?	?	?	?	?	?	?
⑨環境条件							
土壤水分	?	?	?	?	?	?	?
光条件	?	?	?	?	?	?	?
ササ密度	密	密	疎	疎	密	密	疎
再生ポテンシャル評価	低	中	中	高	高	高	高

※第1回大台ヶ原自然再生検討会 参考資料3-6を改訂し作成。

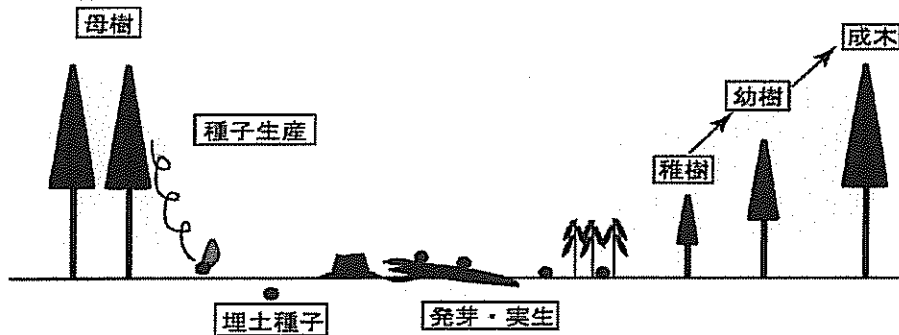
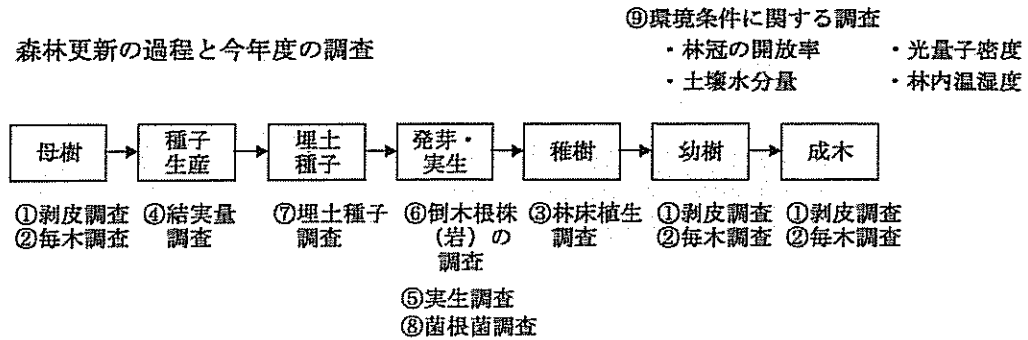


図1 森林更新の過程

森林更新の過程と今年度の調査



第2回森林生態系部会 資料2(一部改変)

※ 更新過程のどこが損なわれており、それゆえポテンシャルが低いのか?を見極めるために、各種調査を実施した。

## II. 植生タイプ別再生ポテンシャル調査方法

### 1. 植生タイプ区分

大台ヶ原の植生を、平成14年度調査の結果などから、ミヤコザサ草原、針葉樹林、落葉広葉樹林の3つに大別し、さらに、林床植生の違いにより、針葉樹林を3タイプ、落葉広葉樹林を2タイプに分けた。これら6つのタイプに分けて再生ポテンシャルの調査を行うこととした。なお、現地確認の結果、落葉広葉樹林-スズタケ林床のタイプは、スズタケの退行の程度により2つに分けることとし、都合7つのタイプにおいて調査を実施した(図2)。

当地域はシカの生息密度が高く、シカの保護管理計画によって適正な生息密度に低下させるよう対策を講じているが、現在の高密度な状態ではシカによる植生への影響が強く、再生手法の検討を行う場合には、シカの影響の排除が必要である。防鹿柵を設置し、防鹿柵内で種々の実証的実験が行えるよう、各植生タイプを代表する箇所を選定し、防鹿柵で囲むこととした。再生ポテンシャル調査は植生タイプごとに、防鹿柵内とその外側にそれぞれ対照区(30m×30m)を設置して行った(図3)。

### 2. 対照区における調査

それぞれの植生タイプの対照区において、以下の項目について調査を行った。

#### (1) 毎木調査(①シカによる剥皮、②母樹、③後継樹)

高さ1.3m以上の樹木(枯死木含む)について、毎木調査を行い、種名、樹高、胸高直径、剥皮状況(6段階、面積)を記録した。また、毎木位置図、樹冠投影図、群落断面図を作成した。

#### (2) 倒木・根株調査(⑥定着可能な倒木・根株)

倒木・根株について、大きさ、位置、コケの被度(%)および優占種(属レベルまでの判別)を記録した。また、倒木・根株上に生育する林冠構成種の実生、稚樹について種名、個体数、高さを記録した。

#### (3) 岩の調査(⑥定着可能な倒木・根株 ※参考値として調査)

岩について、位置を記録した。岩上の実生については、約2㎡程度のサンプリング調査とし、岩上に生育する林冠構成種の実生、稚樹について、種名、個体数、高さを記録し、サンプリングした岩の大きさ、コケの被度(%)および優占種(属レベルまでの判別)について記録した。

#### (4) 林床植生調査(③後継樹)

各小方形区において、高さ1.3m未満の林床植物について、種名、高さ(種別最高値)、被度(%)を記録した。

#### (5) 実生調査(⑤実生)

各小方形区において、林冠構成樹種の実生のうち高さ20cm以上1.3m未満の個体について、種名、高さを記録した。また、小方形区内に設定した1m×1mの実生調査枠

において、高さ 20cm 未満の個体について個体識別を行い、種名、高さを記録した。

(6) 結実量調査 (④種子供給)

各小方形区付近に、シードトラップ (開口面積 1 m<sup>2</sup>) を 9 月中旬から 11 月下旬にかけて設置し、林冠構成樹種の結実量調査を行った。現地で回収した種子については、シードトラップごとに種子量と樹種を記録した。

(7) 埋土種子調査 (⑦埋土種子)

各小方形区付近において、土壌サンプル (1000cm<sup>3</sup>) を 11 月中旬に採取し、土壌中に含まれる林冠構成樹種の種別種子量調査を行った。採取した土壌は、目視により確認できるサイズの種子について判別した。判別後の土壌サンプルは、冷蔵庫 (5℃) に保管している。なお、タイプIVについては調査対象から除外した。

(8) 菌根菌調査 (⑧菌根菌)

対照区内において、菌根菌の子実体の種類および確認位置を 10 月に記録した。

(9) 環境条件に関する調査 (⑨環境条件)

各対照区の環境について、以下の項目について調査を行った。

- ・林冠の開空率：各小方形区において魚眼レンズを用い写真撮影し、解析した。
- ・土壌水分量、光量子密度、林内温湿度：

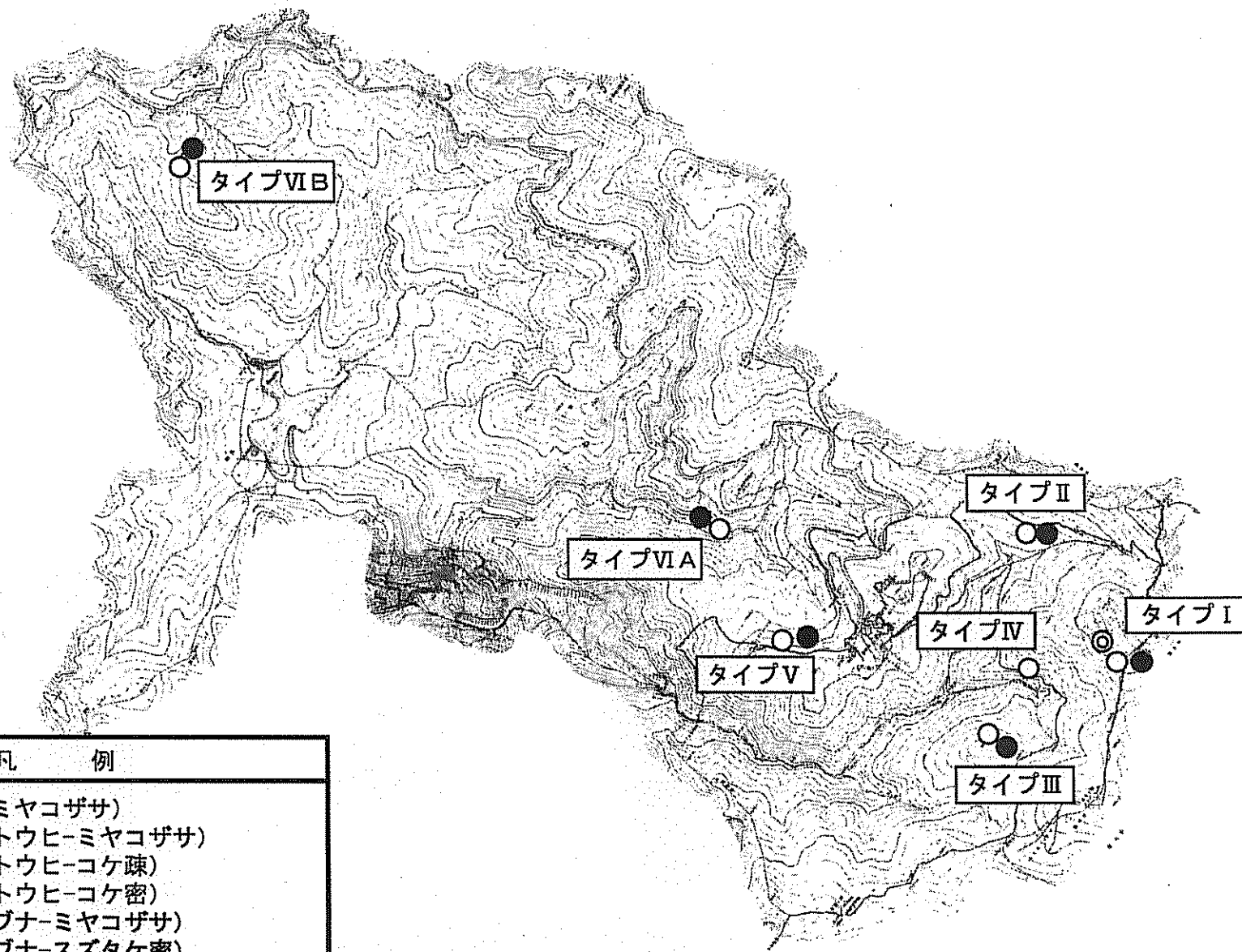
植生タイプ I については既設柵内対照区、その他の植生タイプについては柵内予定地対照区の代表的な地点 1ヶ所にデータロガーを設置し、9月下旬から 11月下旬にかけて自動計測により連続記録を行った。各センサーの設置位置は、光量子密度、林内温湿度については地上高約 1m、土壌水分量については地下 30cm とした。また、光量子密度については、地表付近において 10 月中旬に手動で 1 回計測した。

### 3. 調査時期

各調査項目の調査時期について、表 2 に示す。

表 2 各調査項目の現地調査時期

調査項目	現地調査時期
1. 毎木調査	平成 15 年 9 月～11 月
2. 倒木・根株調査	平成 15 年 9 月～11 月
3. 岩の調査	平成 15 年 9 月～11 月
4. 林床植生調査	平成 15 年 9 月～11 月
5. 実生調査	平成 15 年 9 月～11 月
6. 結実量調査	平成 15 年 9 月～11 月
7. 埋土種子調査	平成 15 年 11 月
8. 菌根菌調査	平成 15 年 10 月
9. 環境条件に関する調査	平成 15 年 9 月～11 月



凡 例

- タイプ I (ミヤコザサ)
- タイプ II (トウヒ-ミヤコザサ)
- タイプ III (トウヒ-コケ疎)
- タイプ IV (トウヒ-コケ密)
- タイプ V (ブナ-ミヤコザサ)
- タイプ VIA (ブナ-スズタケ密)
- タイプ VIB (ブナ-スズタケ疎)

◎:既設柵内対照区 ○:柵内予定対照区 ●:柵外対照区



図2 植生タイプ別再生ポテンシャル調査地点

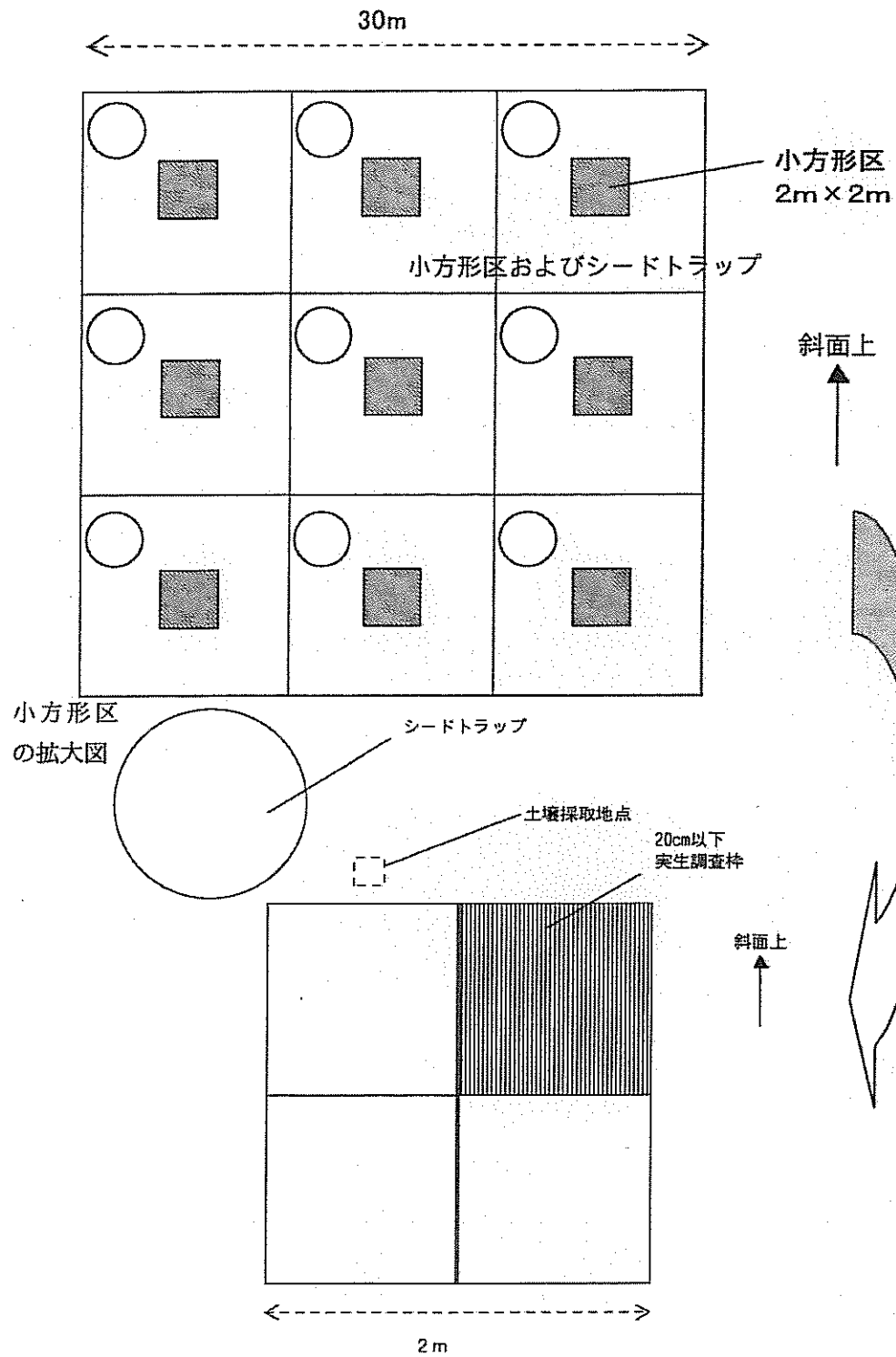
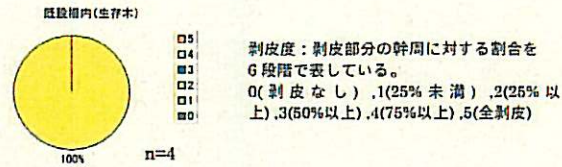


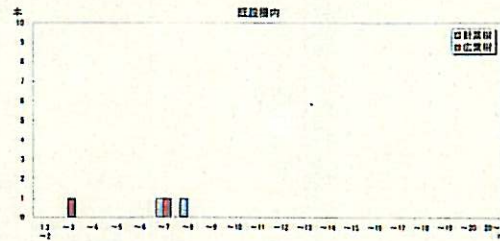
図3 対照区内の小方形区およびシードトラップの設置状況

III. 植生タイプ別再生ポテンシャル調査結果

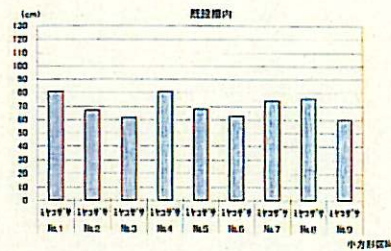
I. ミヤコザサ (既設柵内)



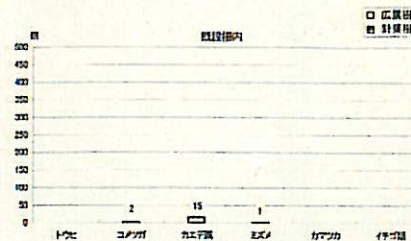
①剥皮度別割合 \* 毎木調査結果 (30m×30m) より作成



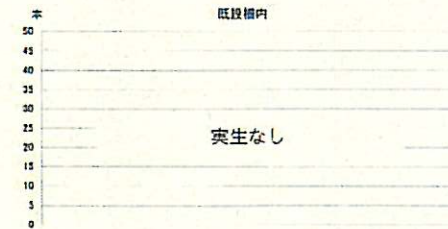
②樹高の頻度分布 \* 毎木調査結果 (30m×30m) より作成



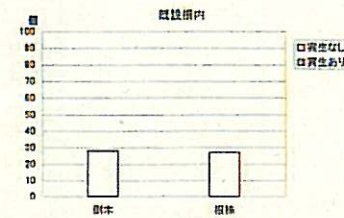
③下層の最高樹高(草丈)値 \* 林床植生調査結果 (2m×2m×9 小方形区) より作成



④種別種子量 \* 結実量調査結果 (開口 1 m<sup>2</sup>×9 個) より作成



⑤種別実生数 \* 実生調査結果 (1m×1m×9 小方形区) より作成



⑥倒木・根株数 \* 倒木・根株調査結果 (30m×30m) より作成

⑦種別埋土種子量 \* 埋土種子調査結果 (10cm×10cm×10cm×9 個) より作成

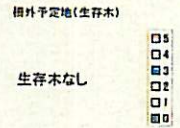
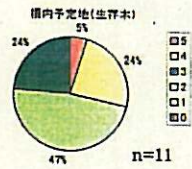
地点	既設柵内
種名	埋土種子なし。

⑧菌根菌調査結果

地点	既設柵内
種名	子実体なし。
調査日	2003/10/16

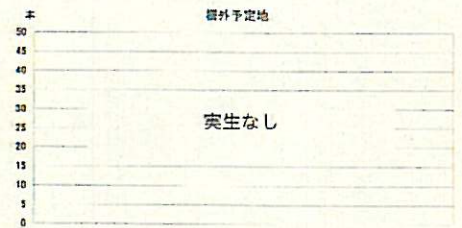
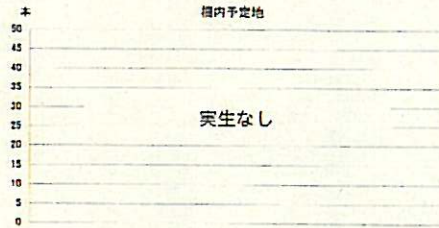
- ・ 母樹がほとんどなく、散布種子量が少ない。
- ・ 稚樹、実生ともほとんど生育していない。
- ・ 下層植生はミヤコザサが優勢しており、ミヤコザサの稈高が高い。
- ・ 倒木・根株数は多いが実生が生育している倒木・根株はない。

# Ⅰ ミヤコザサ (柵内予定地および柵外予定地)

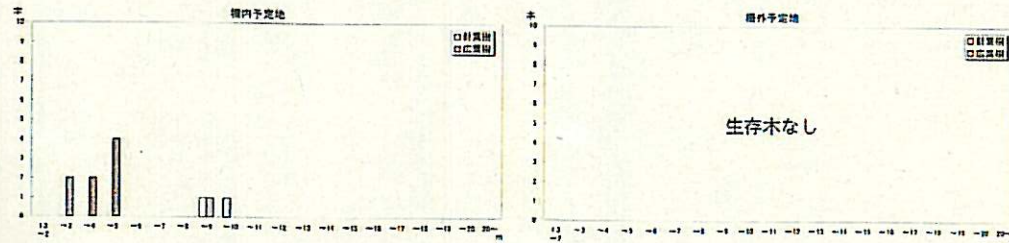


剥皮度：剥皮部分の幹周に対する割合を6段階で表している。  
0(剥皮なし), 1(25%未満), 2(25%以上), 3(50%以上), 4(75%以上), 5(全剥皮)

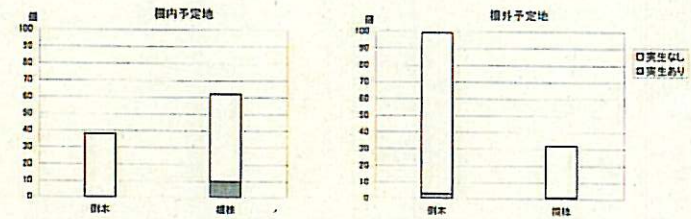
①剥皮度別割合 \* 毎木調査結果 (30m×30m) より作成



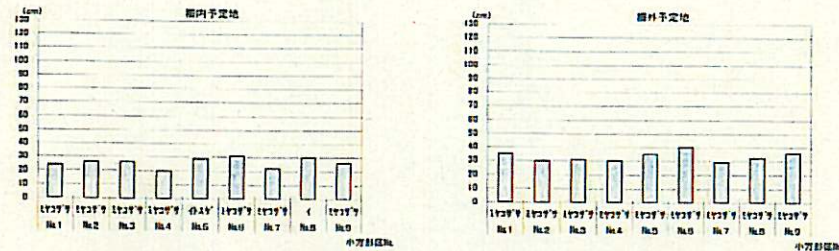
⑤種別実生数 \* 実生調査結果 (1m×1m×9 小方形区) より作成



②樹高の頻度分布 \* 毎木調査結果 (30m×30m) より作成



⑥倒木・根株数 \* 倒木・根株調査結果 (30m×30m) より作成



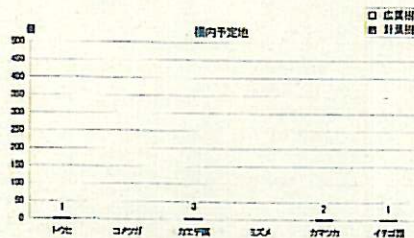
③下層の最高樹高(草丈)値 \* 林床植生調査結果 (2m×2m×9 小方形区) より作成

⑦種別埋土種子量 \* 埋土種子調査結果 (10cm×10cm×10cm×9 個) より作成

地点	柵内予定地	柵外予定地
種名	埋土種子なし。	埋土種子なし。

⑧菌根菌調査結果

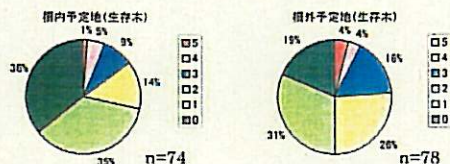
地点	柵内予定地	柵外予定地
種名	子実体なし。	子実体なし。
調査日	2003/10/16	2003/10/16



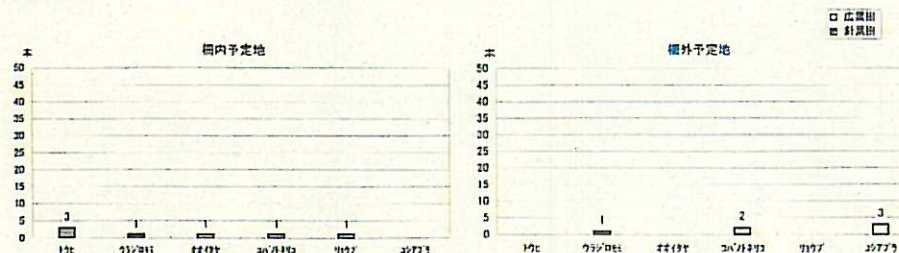
④種別種子量 \* 結実量調査結果 (開口1m²×9 個) より作成

- ・ 母樹がほとんどなく、散布種子量が少ない。
- ・ 稚樹、実生ともほとんど生育していない。
- ・ 下層植生はミヤコザサが優占しており、ミヤコザサの稈高が低い。
- ・ 倒木・根株数は多いが実生が生育している倒木・根株は少ない。

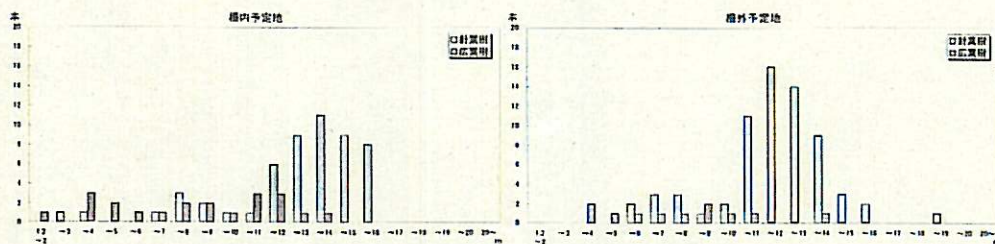
## II トウヒーマヤコザサ



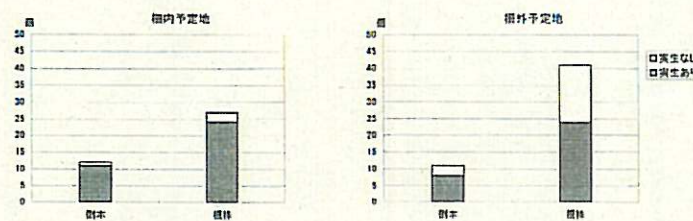
①剥皮度別割合 \* 毎木調査結果 (30m×30m) より作成



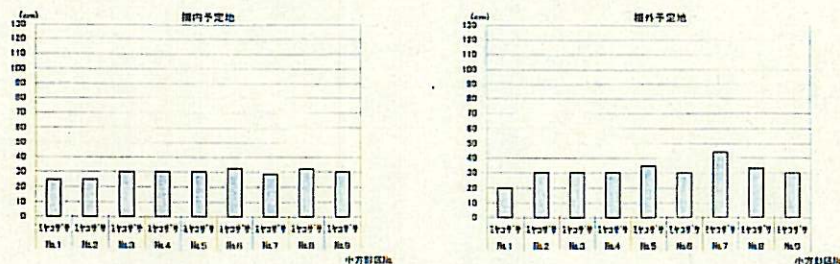
⑤種別実生数 \* 実生調査結果 (1m×1m×9 小方形区) より作成



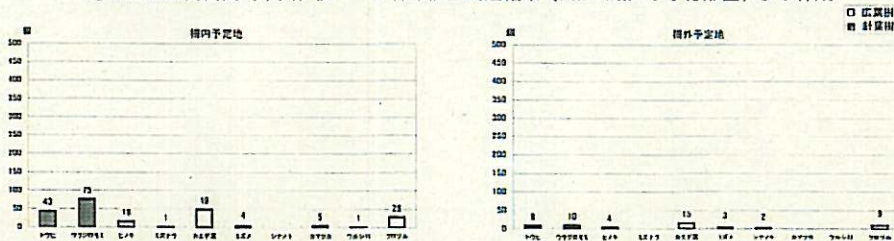
②樹高の頻度分布 \* 毎木調査結果 (30m×30m) より作成



⑥倒木・根株数 \* 倒木・根株調査結果 (30m×30m) より作成



③下層の最高樹高(草丈)値 \* 林床植生調査結果 (2m×2m×9 小方形区) より作成



④種別種子量 \* 結実量調査結果 (間口 1m<sup>2</sup>×9 個) より作成

⑦種別埋土種子量 \* 埋土種子調査結果 (10cm×10cm×10cm×9 個) より作成

地点	棚内予定地	棚外予定地
種名	埋土種子なし。	トウヒ:41 (球果 1) ウラジロモミ:1 ヒメコマツ:1 クワガタ:1

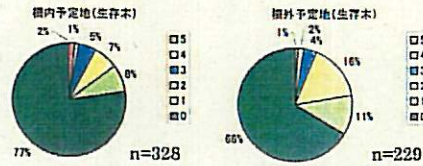
⑧菌根菌調査結果

地点	棚内予定地	棚外予定地
種名	ヌメアカアザケ <i>Lactarius hygginus</i> キツネケ <i>Laccaria laccata</i>	オチノケ <i>Russula senecis</i> オチノケ <i>Laccaria bicolor</i>
調査日	2003/10/3	2003/10/3

- ・ トウヒ、ウラジロモミ等、林冠構成樹種の種子散布がある。
- ・ 稚樹はほとんど生育していない。実生は生育しているが、少ない。
- ・ 下層植生はミヤコザサが優占しており、ミヤコザサの稈高が低い。
- ・ 倒木・根株数は多く、実生が生育している倒木・根株数も多い。

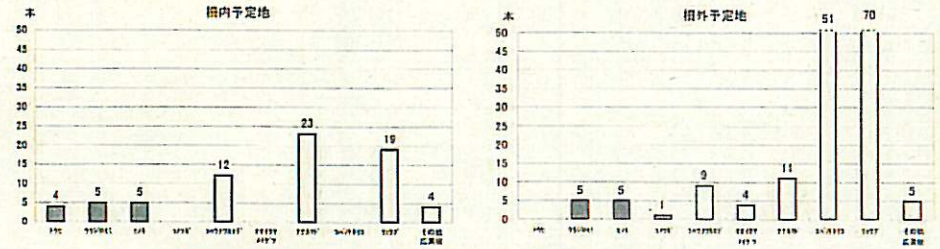


### III トウヒーコケ疎

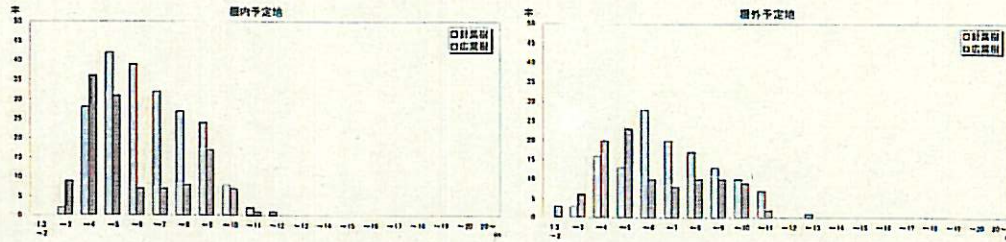


剥皮度：剥皮部分の幹周に対する割合を6段階で表している。  
0(剥皮なし), 1(25%未満), 2(25%以上), 3(50%以上), 4(75%以上), 5(全剥皮)

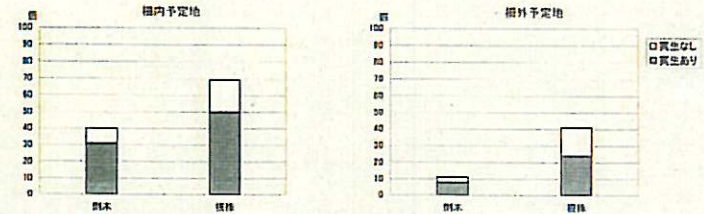
①剥皮度別割合 \* 毎木調査結果 (30m×30m) より作成



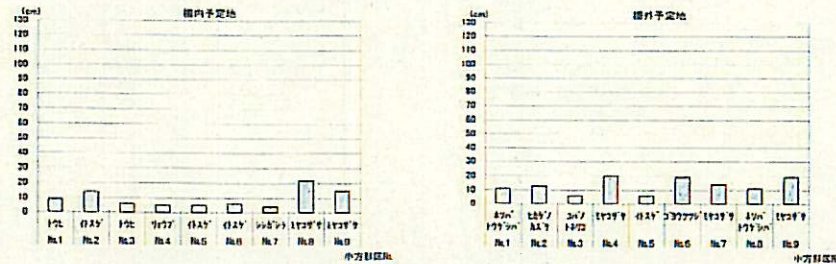
⑤種別実生数 \* 実生調査結果 (1m×1m×9 小方形区) より作成



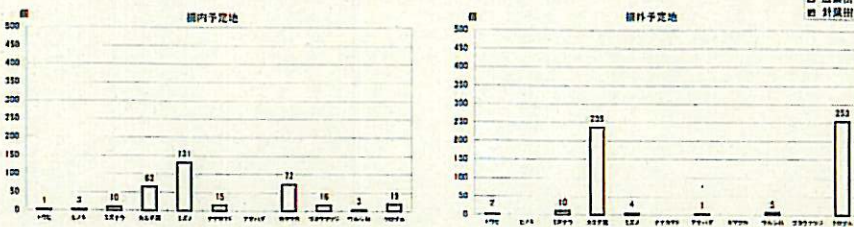
②樹高の頻度分布 \* 毎木調査結果 (30m×30m) より作成



⑥倒木・根株数 \* 倒木・根株調査結果 (30m×30m) より作成



③下層の最高樹高(草丈)値 \* 林床植生調査結果 (2m×2m×9 小方形区) より作成



④種別種子量 \* 結実量調査結果 (開口 1 m<sup>2</sup>×9 個) より作成

⑦種別埋土種子量 \* 埋土種子調査結果 (10cm×10cm×10cm×9 個) より作成

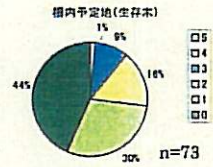
地点	棚内予定地	棚外予定地
種名	ウシ*0枚:1 カエ*属:1 ヌ*4:10	埋土種子なし。

⑧菌根調査結果

地点	棚内予定地	棚外予定地
種名	ヌ*カチカチ <i>Lactarius hyssiginus</i> イロ*カチカチ <i>Russula metachroa</i>	キ*カチカチ <i>Russula senecis</i> キ*カチカチ <i>Laccaria laccata</i> キ*カチカチ <i>Lactarius chrysorrheus</i>
調査日	2003/10/16	2003/10/3

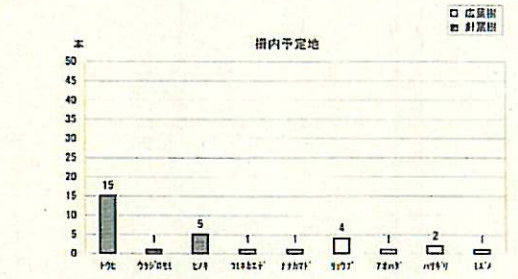
- ・ 林冠構成樹種の種子散布がある。
- ・ 上層木の樹高は低く、生育本数が多い。
- ・ 稚樹、実生とも生育している。
- ・ 下層植生はイトスゲが優占しており、ミヤコザサは一部で生育するが樹高は低い。
- ・ 倒木・根株数は多く、実生が生育している倒木・根株数も多い。

## Ⅳ トウヒーコケ密

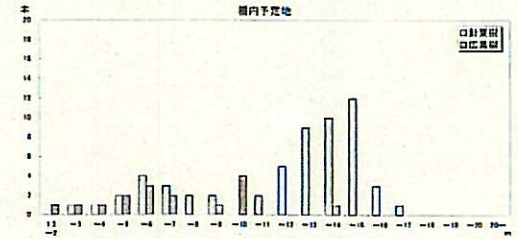


剥皮度：剥皮部分の幹周に対する割合を6段階で表している。  
 0(剥皮なし), 1(25%未満), 2(25%以上), 3(50%以上), 4(75%以上), 5(全剥皮)

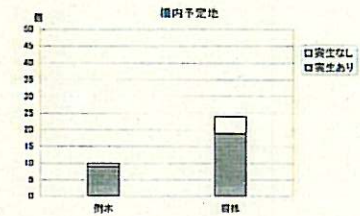
①剥皮度別割合 \* 毎木調査結果 (30m×30m) より作成



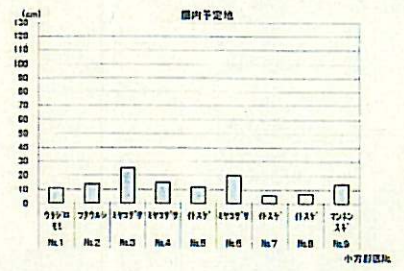
⑤種別実生数 \* 実生調査結果 (1m×1m×9 小方形区) より作成



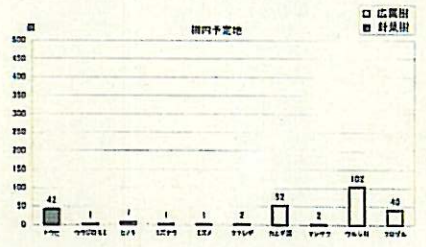
②樹高の頻度分布 \* 毎木調査結果 (30m×30m) より作成



⑥倒木・根株数 \* 倒木・根株調査結果 (30m×30m) より作成



③下層の最高樹高 (草丈) 値 \* 林床植生調査結果 (2m×2m×9 小方形区) より作成



④種別種子量 \* 結実量調査結果 (開口 1m<sup>2</sup>×9 個) より作成

⑦種別埋土種子量 \* 埋土種子調査結果 (10cm×10cm×10cm×9 個) より作成

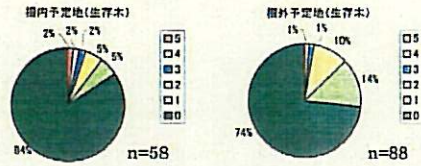
地点	櫛内予定地
種名	土壌を採取できない場所であるため、データなし。

⑧菌根面調査結果

地点	櫛内予定地
種名	ヒカクソウ <i>Scleroderma areolatum</i>
調査日	2003/10/3

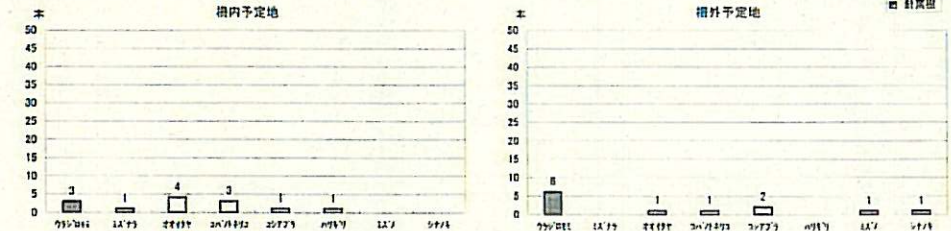
・ 林冠構成樹種の種子散布がある。  
 ・ 稚樹はほとんど生育していないが、実生は生育している。  
 ・ 下層植生はイトスゲが優占しており、ミヤコザサは一部で生育するが稈高は低い。  
 ・ 倒木・根株数は多く、実生が生育している倒木・根株数も多い。

V ブナーミヤコザサ

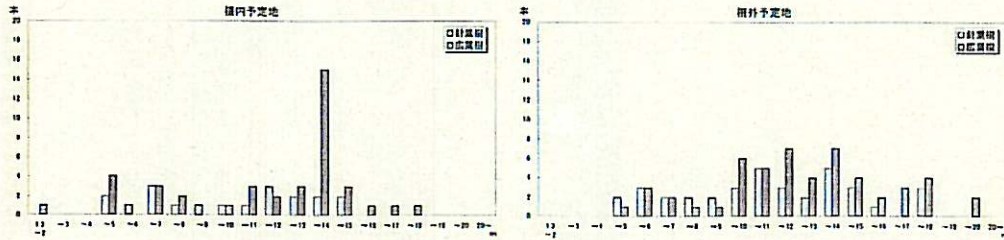


①剥皮度別割合 \* 毎木調査結果 (30m×30m) より作成

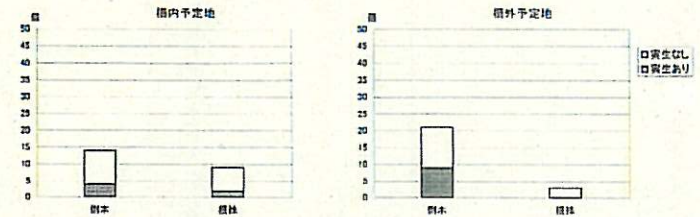
剥皮度：剥皮部分の幹周に対する割合を6段階で表している。  
0(剥皮なし), 1(25%未満), 2(25%以上), 3(50%以上), 4(75%以上), 5(全剥皮)



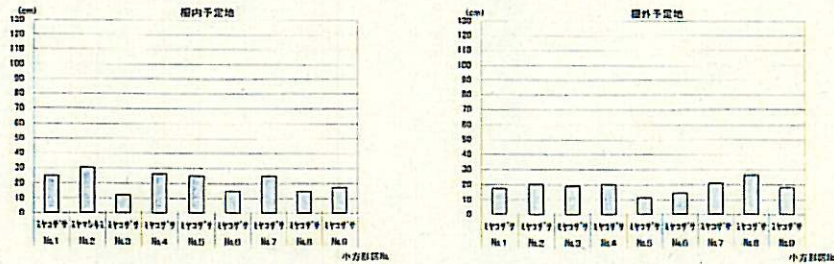
⑤種別実生数 \* 実生調査結果 (1m×1m×9小方形区) より作成



②樹高の頻度分布 \* 毎木調査結果 (30m×30m) より作成



⑥倒木・根株数 \* 倒木・根株調査結果 (30m×30m) より作成



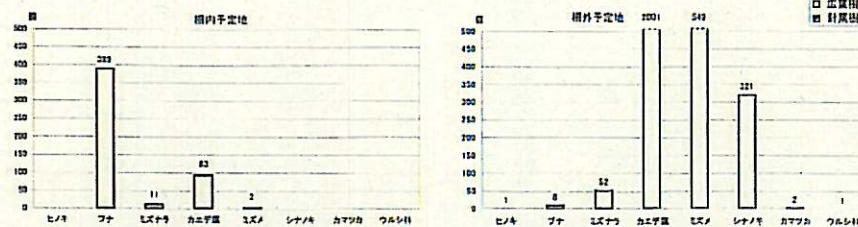
③下層の最高樹高(草丈)値 \* 林床植生調査結果 (2m×2m×9小方形区) より作成

⑦種別埋土種子量 \* 埋土種子調査結果 (10cm×10cm×10cm×9個) より作成

地点	棚内予定地	棚外予定地
種名	ブナ:2 ミズナ:1	ブナ:5 ミズナ:1

⑧菌根菌調査結果

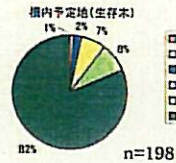
地点	棚内予定地	棚外予定地
種名	アハミタカ カハイロウケ	Lactarius laeticolorus Amanita vaginata var. fulva
調査日	2003/10/2	2003/10/3



④種別種子量 \* 結実量調査結果 (開口 1 m<sup>2</sup>×9個) より作成

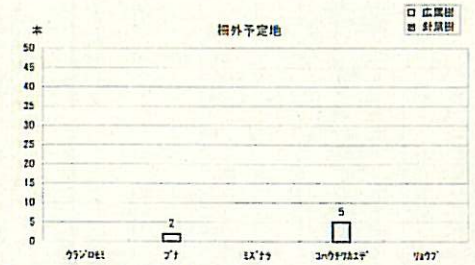
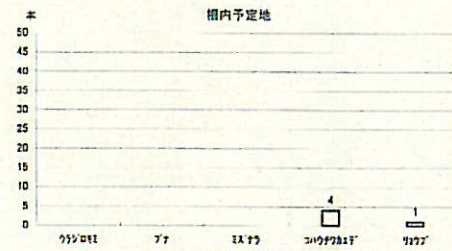
・ ブナ、カエデ属等、林冠構成樹種の種子散布がある。  
・ 稚樹はほとんど生育していない。実生は生育しているが少ない。  
・ 下層植生はミヤコザサが優占しており、ミヤコザサの稈高は低い。

VIA ブナースタケ密

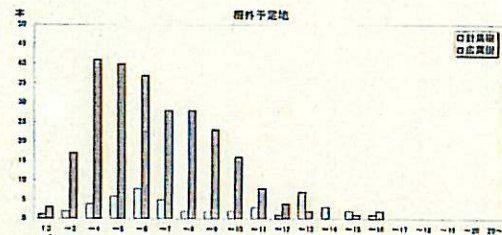
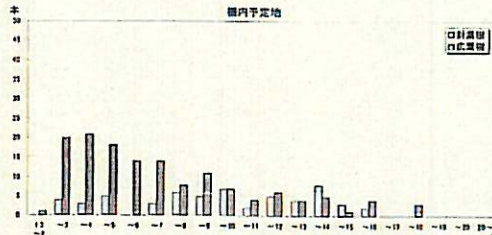


剥皮度：剥皮部分の幹周に対する割合を6段階で表している。  
0(剥皮なし) .1(25%未満) .2(25%以上) .3(50%以上) .4(75%以上) .5(全剥皮)

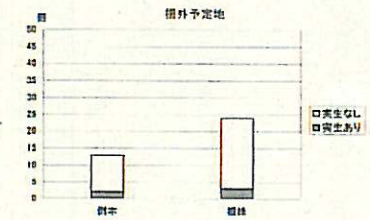
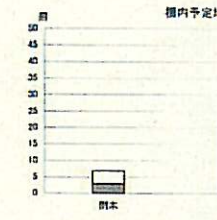
①剥皮度別割合 \* 毎木調査結果 (30m×30m) より作成



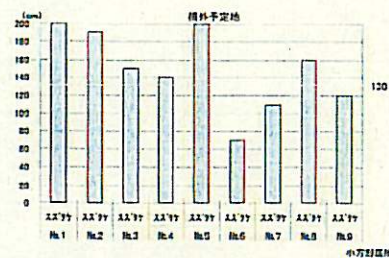
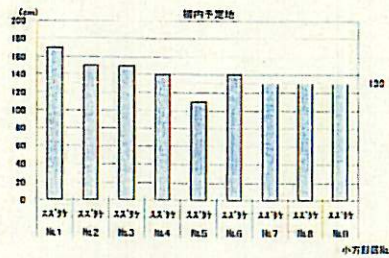
⑤種別突生数 \* 突生調査結果 (1m×1m×9 小方形区) より作成



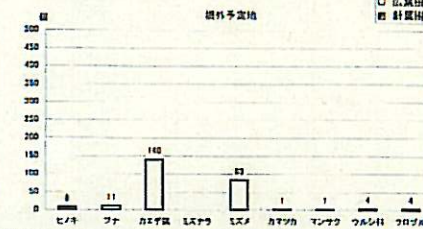
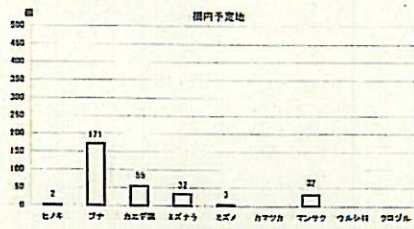
②樹高の頻度分布 \* 毎木調査結果 (30m×30m) より作成



⑥倒木・根株数 \* 倒木・根株調査結果 (30m×30m) より作成



③下層の最高樹高(草丈)値 \* 林床植生調査結果 (2m×2m×9 小方形区) より作成



④種別種子量 \* 結実量調査結果 (開口1m×9個) より作成

⑦種別埋土種子量 \* 埋土種子調査結果 (10cm×10cm×10cm×9個) より作成

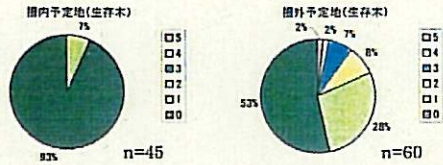
地点	内側予定地	外側予定地
種名	クサノコ属:1 ブナ:6	クサノコ属:1 ブナ:1 カエデ属:2

⑧菌根菌調査結果

地点	内側予定地	外側予定地
種名	キノコカサタケ <i>Lactarius hygizus</i>	キノコカサタケ <i>Laccaria laccata</i>
調査日	2003/10/17	2003/10/17

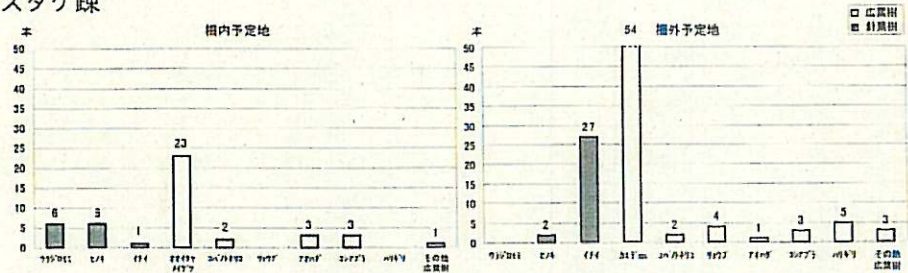
- ・ ブナ、カエデ属等、林冠構成樹種の種子散布がある。
- ・ 稚樹はほとんど生育していない。突生は生育しているが少ない。
- ・ 下層植生はスタケが優占しており、スタケの稈高が高い。

VIB ブナースタケ疎

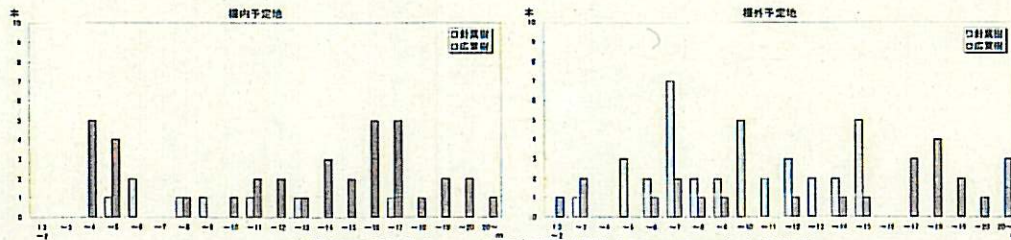


剥皮度：剥皮部分の幹周に対する割合を6段階で表している。  
0(剥皮なし) ,1(25%未満) ,2(25%以上) ,3(50%以上) ,4(75%以上) ,5(全剥皮)

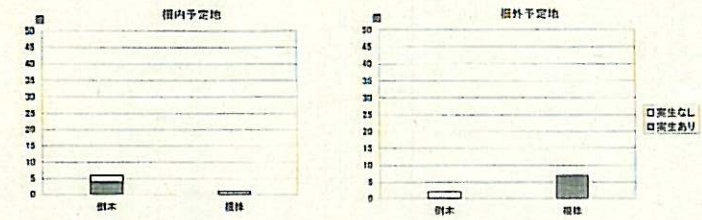
①剥皮度別割合 \*毎木調査結果(30m×30m)より作成



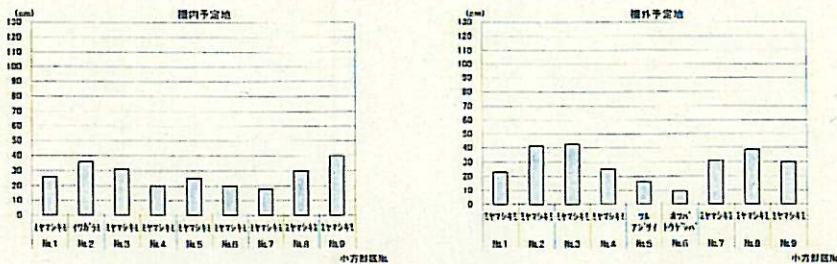
⑤種別実生数 \*実生調査結果(1m×1m×9小方形区)より作成



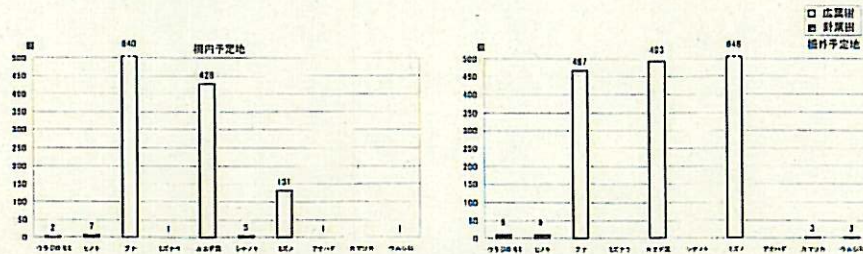
②樹高の頻度分布 \*毎木調査結果(30m×30m)より作成



⑥倒木・根株数 \*倒木・根株調査結果(30m×30m)より作成



③下層の最高樹高(草丈)値 \*林床植生調査結果(2m×2m×9小方形区)より作成



④種別種子量 \*結実量調査結果(開口1m×9個)より作成

⑦種別埋土種子量 \*埋土種子調査結果(10cm×10cm×10cm×9個)より作成

地点	内予定地	外予定地
種名	ブナ:12 カエデ属:1 ミスミ:1	ブナ:2 ミスミ:1

⑧菌根菌調査結果

地点	内予定地	外予定地
種名	子実体なし。	子実体なし。
調査日	2003/10/2	2003/10/2

- ・ブナ、カエデ属等、林冠構成樹種の種子散布がある。
- ・稚樹はほとんど生育していないが、実生は生育している。
- ・下層植生はミヤマシキミが優占しており、スタケはほとんど生育していない

表 森林植生調査を実施した各植生タイプの状況

対照区の大きさ 上層木・倒木・根株：900㎡ (30m×30m)、下層植生：36㎡ (2m×2m×9)、突生：9㎡ (1m×1m×9)

植生タイプ	I ミヤコザサ			II トウヒ-ミヤコザサ		III トウヒ-コケ疎		IV トウヒ-コケ 密	V ブナ-ミヤコザサ		VI A ブナ-スダケ密		VI B ブナ-スダケ疎	
	既設柵内	柵内予定地	柵外予定地	柵内予定地	柵外予定地	柵内予定地	柵外予定地	柵内予定地	柵内予定地	柵外予定地	柵内予定地	柵外予定地	柵内予定地	柵外予定地
①剥皮 生存木剥皮率 (%)	100.0%	76.2%	-	64.2%	83.5%	22.4%	33.5%	56.6%	32.8%	26.6%	18.4%	21.3%	6.7%	46.7%
②上層木 (H≥1.3m) 胸高断面積合計上位種 (㎡/ha)	トウヒ 1.01 ツツジ 0.04 カマツカ 0.02	トウヒ 1.90 オオヤマモミ 0.69 ナカマツ 0.58 コノハナツツジ	なし	トウヒ 26.43 ツツジ 7.76 ヒノキ 6.46	トウヒ 27.30 ツツジ 7.23 ヒノキ 6.19	コノハナツツジ 12.17 トウヒ 10.37 ヒノキ 6.32	トウヒ 9.55 コノハナツツジ 7.70 ヒノキ 4.72	トウヒ 42.82 ツツジ 3.13 ヒノキ	ブナ 27.19 ツツジ 9.31 オオヤマモミ 4.67	15.92 ツツジ 13.20 オオヤマモミ	ミズナ 29.06 ブナ 14.74 ツツジ 10.79 ミズナ	12.73 ツツジ 10.79 ミズナ	ブナ 23.18 オオヤマモミ 7.08 ツツジ	ブナ 29.06 ツツジ 11.77 イチイ
生存木種数	3	5	0	13	9	14	18	13	9	9	19	25	9	12
生存木本数	4	11	0	74	78	328	229	73	59	88	198	299	45	60
③下層植生 (H<1.3m)														
全体被度 (%)	89.4	98.3	94.4	87.2	95	7.1	11.2	21.7	78.9	67.8	37.2	25.9	21.8	16.1
優占種	ミヤコザサ	ミヤコザサ	ミヤコザサ	ミヤコザサ	ミヤコザサ	トスガ	トスガ	トスガ	ミヤコザサ	ミヤコザサ	スダケ	スダケ	ミヤマシギ	ミヤマシギ
最大高 (cm)	81	31	40	32.5	44	22	20	25	26.5	26.5	170	200	40	42.5
ササ密度 種名	ミヤコザサ	ミヤコザサ	ミヤコザサ	ミヤコザサ	ミヤコザサ	ミヤコザサ	ミヤコザサ	ミヤコザサ	ミヤコザサ	ミヤコザサ	スダケ	スダケ	スダケ	スダケ
平均被度 (%)	87.2	93.0	92.2	87.2	86.7	2.8	6.0	11.7	76.1	67.8	36.7	25.3	+	+
④結実量 (9.18-11.27) (1㎡×9)														
散布種数	3	1	0	9	7	10	6	10	4	8	6	8	9	7
散布種子数	18	7	0	222	41	333	510	250	495	2935	295	252	1216	1630
⑤突生														
突生調査区種数 (H≤20cm)	0	0	0	5	3	13	9	13	6	6	2	2	8	11
突生調査区突生数 (H≤20cm)	0	0	0	7	6	78	161	37	13	12	5	7	45	103
⑥倒木・根株														
倒木数	28	38	99	12	11	40	31	10	14	21	7	13	6	9
突生確認倒木数	0	0	3	11	8	31	28	9	5	9	3	2	4	7
確認突生数	0	0	3	88	27	221	311	137	8	14	3	3	43	118
平均コケ被度 (%)	13.2	7.0	9.2	82.3	70.9	72.6	71.9	82.0	67.1	55.2	68.6	66.9	61.7	51.1
根株数	27	62	32	27	41	69	44	24	9	3	27	24	1	0
突生確認根株数	0	10	1	24	24	52	40	19	4	0	4	3	0	0
確認突生数	0	28	1	123	102	221	386	86	12	0	5	6	0	0
平均コケ被度 (%)	29.5	23.9	25.3	88.9	78.5	59.8	67.2	64.2	58.9	60.0	70.0	68.3	30.0	0.0
⑦埋土種子 (10cm×10cm×10cm×9)														
確認種数	0	0	0	0	3	3	0	-	1	2	2	3	3	2
確認種子量	0	0	0	0	44	12	0	-	2	6	7	4	14	3
⑧菌根菌 10月子実体調査による														
確認種数	0	0	0	2	2	2	3	1	2	1	1	1	0	0
⑨環境条件 温度 (°C) (10月1日正午)		19.4		15.7		12.6		14.9		13.4		14.8		16.0
湿度 (%) (10月1日正午)		51		66		82		71		77		74		63
相対光量子密度 (%) (10/1~31積算 I=100%)		100		7.8		6.1		7.1		11.9		14.4		15.8
林冠開空率 (%)	70.4	78.3	87.9	13.0	11.8	10.3	10.9	12.8	16.2	13.9	9.1	9.0	10.5	10.3

表4 検討項目と再生ポテンシャル評価（予測）（表1と同じ）


植生タイプ	I ミヤコザサ	II トウヒー ミヤコザサ	III トウヒー コケ疎	IV トウヒー コケ密	V ブナー ミヤコザサ	VI A ブナー スズタケ密	VI B ブナー スズタケ疎
①鹿による剥皮	有	有	有	有	有	有	有
②母樹	無	有	有	有	有	有	有
③後継樹	無	無	無	無	無	無	無
④種子供給	無	有	有	有	有	有	有
⑤実生	無	無	無	有	無	無	無
⑥定着可能な倒木・根株	無	無	無	有	—	—	—
⑦埋土種子	?	?	?	?	?	?	?
⑧菌根菌	?	?	?	?	?	?	?
⑨環境条件							
土壌水分	?	?	?	?	?	?	?
光条件	?	?	?	?	?	?	?
ササ密度	密	密	疎	疎	密	密	疎
再生ポテンシャル評価	低	中	中	高	高	高	高

※第1回大台ヶ原自然再生検討会 参考資料3-6を改訂し作成。

表5 検討項目と再生ポテンシャル評価（結果）

植生タイプ	I ミヤコザサ	II トウヒー ミヤコザサ	III トウヒー コケ疎	IV トウヒー コケ密	V ブナー ミヤコザサ	VI A ブナー スズタケ密	VI B ブナー スズタケ疎
①鹿による剥皮	有	有	有	有	有	有	有
②母樹	無	有	有	有	有	有	有
③後継樹（稚樹）	無	無	無	無	無	無	無
④種子供給	無	有	有	有	有	有	有
⑤実生	無	有	有	有	無	無	有
⑥定着可能な倒木・根株	無	有	有	有	—	—	—
⑦埋土種子	来年度、まき出し試験を実施し、その結果をふまへ評価する。						
⑧菌根菌	来年度、春～夏にかけて調査を実施し、その結果をふまへ評価する。						
⑨環境条件							
土壌水分	来年度、春～夏にかけて調査を実施し、その結果をふまへ評価する。						
光条件							
ササ密度							
再生ポテンシャル評価（仮）	低	中	高	高	中	高	高

※第1回大台ヶ原自然再生検討会 参考資料3-6を改訂し作成。

 予測と異なる結果が得られた項目